

平成29年1月31日

地域密着型サービス運営推進会議報告書兼議事要旨

厚生労働省令第34号（平成18年3月14日）第108条の規定に基づき、平成29年1月30日運営推進会議を開催したので、その記録を作成し、これを公表します。

千葉県長生郡白子町幸治3079番地3
設置主体) 株式会社 相生
代表者) 代表取締役 萩原 将之

事業主体及び組織の概要

(介護保険事業所番号)

1275900213

(施設種類及び名称)

グループホーム ゆうなぎ九十九里

管理者兼ホーム長 小川 功一

※ホーム長は当社職制

(事業主体)

〒299-4216

(本店所在地) 千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

(商号) 株式会社 相生 (かぶしきがいしゃそうせい)

(代表者) 代表取締役 萩原 将之

電話0475(36)5711 FAX0475(36)5712

(所在地)

〒283-0102

千葉県山武郡九十九里町小関2316番地1

電話0475(70)7333 FAX0475(70)7335

(開設年月日及びユニット数と利用定員)

平成17年10月 1日 1ユニット・利用定員9人(一番館)

平成23年 4月 1日 1ユニット・利用定員9人(二番館)

運営推進会議の概要

日 時：平成29年1月30日 13時40分から15時00分

会 場：当ホーム一番館の畳ルームにて

出席者：運営推進会議の構成

当ホーム

- ・ 代表取締役 萩原 将之（代表者）
- ・ 管理者兼ホーム長 小川 功一
- ・ 計画作成担当者 小川 功一（一番館担当、介護支援専門員）
- ・ 計画作成担当者 内山 貴司（二番館担当）

委員

- ・ 地 域 住 民 6名
- ・ 当町社会福祉協議会事務局 1名
- ・ 当町地域包括支援センター 1名（介護支援専門員）

（議題）

1. 入居者情報
2. ゆうなぎかわら版の内容について
3. 当ホーム管理者の考えるグループホームとは何か
4. 認知症サポーターに関して

(議事要旨)

初めて参加される方がいたため、運営推進会議の趣旨について、代表者より説明を行う。その後、前回の運営推進会議（11月28日）から今日までの施設や入居者の様子について、説明を行う。また、当ホームの管理者が考えるグループホームについても説明をする。最後に地域包括支援センターの職員より、『認知症サポーター』の活動について説明してもらう。

1. 入居者情報 平成29年1月25日現在

一番館：男性2名 女性4名 小計6名
二番館：男性6名 女性3名 小計9名
計15名・うち九十九里町内の入居者は6名

■要介護度別の内訳

要介護度	一番館	二番館
1	1	3
2	1	2
3	3	2
4	0	2
5	1	

2. ゆうなぎかわら版の内容について

今回は12月号と1月号のそれぞれの内容について説明を行う。なお、かわら版の冒頭の文章については、代表者が作成していることもあわせて説明を行う。12月号に関しては、11月に入居者と職員とで外出をしたこと（紅葉見学）について説明。外出当日に体調不良などで、外出のできない入居者については、弁当を購入。当ホームで過ごしてもらったことについても、説明を行う。1月号に関しては、毎年ノロウイルスやインフルエンザが流行し始める頃にあわせて、家族に面会についての配慮を要請する（家族等において体調不良の場合の面会断念や延期、面会の際のマスク着用、玄関備え付けのアルコール噴射器による手指の消毒の励行）として冒頭の文章として載せていることについての説明を行う。

3. グループホームの考え方について

当ホームの管理者であり、一番館の計画作成担当者である小川が、経歴も含めて、グループホームについて、その考えを説明する。

小川) 自分は昔からバイクが好きであったため、趣味と実益を兼ねてバイク便の仕事をしていた。事情がありバイク便の仕事を辞めた後、目標を失っていた時期もあった。色々な仕事を経験していく中で、『人の役に立つ仕事がしたい。それにはどのようなものがあるか』と考え、頭に浮かんだことが『自分はお年寄りのことが好き』という思であった。特別養護老人ホームで仕事をしていく中で、(最初の頃は資格・経験がないため、上司の指示の通りに仕事をしていったが)『これでよいのだろうか』という思いが出てきた(具体例として、主食と薬を一緒に提供することへの違和感について、説明を行う)。特別養護老人ホームは「集団処遇」であり、自分のやりたい介護とは何かを考えた末に、よりひとりひとりのケアをすることができるグループホームで働き始めた。しかしそれでも、ある程度上司の指示も聞かなければいけない状況の中では、自分の思うことができないこともあり、『自分で(グループホームを)やるしかない』と考えた。そこで、昔から交流のあった当社の代表者に『こういうことをやりたい』ということの説明し、今の施設をはじめることになった。

今自分が一番やりたい事は、自分の考えや経験をしっかりと伝え、次の人材しっかりと育てることである。また、介護の仕事に対して思うことを、このような会議の場で伝えていくこともその一つであると考えている。

4. 認知症サポーターに関して

参加された委員の方が「オレンジリング」を装着されており、『知識としては認知症サポーターについて知っているが、具体的には、どのような活動を行っているのか』について、当ホーム職員が地域包括支援センターの職員に説明を願った。

委員) 「オレンジリング」は「認知症サポーター養成講座」を受講した人に配られる、認知症サポーターであることの証である。認知症についての理解を深め、認知症の人を地域全体で見守っていくことを目的としている。具体的な活動としては、認知症に関

する説明会などを行っている。小学生などにも福祉教育の一環として説明会を開催なども予定している。

委員) どの機関が窓口となっているのか。

委員) 地域包括支援センターだけではなく、町の健康保健福祉課なども、その窓口となっている。

委員) 現在は少子高齢化の時代であり、高齢者を介護できる人材も、今後減ってくるのではないかと思う。このような活動を地区ごとに行うのではなく、地域全体に広げ活動していくことも必要になってくるのではないか。またこれらの活動を通して、今の子ども達が将来介護の世界に入ってきてくれることも期待できるのではないだろうか。

委員) (ボランティア組織の方) 自分達がこの施設で何ができるのか、何を望まれているのかを知るために会議に参加したが、今回はそのような話は出てこなかった。

職員) 議題として提示しなかったことについて謝罪し、方向性を検討し、次回の会議において伝えることを約する。

最後に次回の運営推進会議の開催日を平成29年3月27日の13時30分から予定することを決し、会議を終了する。

本件のお問合せ先

グループホーム ゆうなぎ九十九里

管理者兼ホーム長 小川 功一

電話 0475-70-7333